

[緊張をほぐすための活動3]

【ねらい】互いのエラー(失敗)を許し合える雰囲気をつくる。

活動の内容	指導者として気をつけたいこと
<p>【活動1】</p> <p>「ネームターン」</p> <p>左右の人とあいさつをする活動</p> <p>①輪になり、中央を向く。 ②参加者は、左右のどちらに向きを変えるか決める。 ③指導者の合図(ex.「じゃ〜んぷ」)の合図で、全員が同時に軽く飛び上がり、その方向を向く。 ④向かい合った者同士は、握手などのあいさつをする。背中を向けられた者は、「向かい合えてよかったね」という気持ちを込め拍手をする。</p> <p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none">・活動の途中で、場所を入れ替わるとよい。	<p>【ふりかえりの例】</p> <p>「向かい合ったとき、どんな気持ちだった?」「背中を向けられたとき、どんな気持ちだった?」など</p> <p>※いつも同じ方向を向く子どももいる。これは、隣の人を見て向く方向を決めていると考えられる。そこにスポットライトを当て過ぎると、「自分は避けられている」とつらい思いをする子どもも出ることがある。集団の現状と受け止め、少しずつほぐしていくことが必要である。</p>
<p>【活動2】</p> <p>「じゃ〜んぷ」</p> <p>形を崩さずにジャンプする活動</p> <p>①全員できれいな輪をつくる。 ②全員で「じゃ〜んぷ」と言いながら、輪の中心に向かって、一步程度飛び出す。 ③「ドン!」とみんなの着地した音がぴったりそろったり、輪の形が崩れてなかったりすればOK。</p> <p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none">・後ろに飛び出すことも可能だが、転んで後頭部を打たないような、安全面への配慮も必要。	<p>【ふりかえりの例】</p> <p>「音が揃ったとき、どんな気持ちだった?」「どうしてうまくいったの?」「今で本当にOK?満足?」など</p> <p>※OKかどうかを、子どもたちに決めさせることで、「自分たちはどの程度をよしとするのか」など、話し合いのきっかけとすることができる。</p>
<p>【活動3】</p> <p>「前後左右」</p> <p>声を合わせて、同じ方向にジャンプする活動</p> <p>①輪になり、手をつなぐ。 ②指導者の声につづいて、声を出しながら、前後左右に一步ジャンプする。 ③パターンとしては4パターン その1 指導者と同じ方向を言い、その方向に跳ぶ。 ex. 指導者「前」—参加者「前」(前にジャンプ) その2 指導者と逆方向を言い、その方向に跳ぶ。 ex. 指導者「前」—参加者「後ろ」(後ろにジャンプ) その3 指導者と同じ方向を言い、逆方向に跳ぶ。 ex. 指導者「前」—参加者「前」(後ろにジャンプ) その4 指導者と逆方向を言い、逆方向に跳ぶ ex. 指導者「前」—参加者「後ろ」(前にジャンプ)</p> <p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none">・「キャッチ」や「インパルス」などで、手をつなぐことができる環境をつくっておくとよい。	<p>【ふりかえりの例】</p> <p>「どう?うまくいった?」 「今の笑いは、失敗したことを許して楽しむ笑い?失敗したことをバカにする笑い?どっちだろうね」 「みんなは、このクラスをどんな笑いでいっぱいになりたい?」など</p> <p>※互いのエラー(失敗)を許し合える環境をつくることは、日常生活や授業においても必要である。そのきっかけとなる活動と意識したい。</p>